

2050年目標を見据えた

参加費

無料 (定員: 350名)

建築物の持続性と高性能化を 考えるシンポジウム in 東大

[CPD認定プログラム (4単位)]

日時 2016年11月18日(金)
13:00~17:05 (開場12:30)

会場 東京大学 伊藤国際学術センター
(伊藤謝恩ホール)

建築物を建てるにあたり、長期的な資源・エネルギーコストの上昇、災害に耐えうる建築物、健康に関するユーザーの関心が高まっており、居住環境の品質に対するニーズは高い。省エネと快適性を兼ねた断熱性能向上はもとより、ライフスタイルとその変化に応じて改修を低コストで行い、建築物の価値が上がるような改修を行っていくなど、施工者は、様々な努力を行っていく必要があります。

一つの提言としてZEB (ネット・ゼロエネルギー・ビルディング)、ZEH (ネット・ゼロエネルギー・ハウス) があります。建築物の断熱性能と機器の効率を高めた上で、エネルギーをすべて自然エネルギーでまかなうという考え方です。これにより住居・建物から排出されるエネルギーはゼロとなれば、エネルギー消費が34%ある民生部門のエネルギー消費量が激減し、CO₂排出も大幅に削減されます。新築でスタートした取組だが、改修・リノベーションにいかに応用していくか、どのようにビジネスとして育てていくかを専門家と共に考えます。

13:00 ~ 13:05 **開会挨拶** 亀高 真一郎 (塩ビ工業・環境協会 理事 (株)カネカ 取締役常務執行役員)

13:05 ~ 14:05 **基調講演 「プラチナ社会における省エネルギー」**

小宮山 宏 ((株)三菱総合研究所 理事長、プラチナ構想ネットワーク 会長、
国立大学法人東京大学 第28代総長)

14:05 ~ 14:35 **講演 1 「ZEB、ZEHの考え方と改修への可能性」**

秋元 孝之 (芝浦工業大学 工学部建築工学科 教授)

14:35 ~ 15:05 **講演 2 「建築物の省エネ、創エネの方向性と応用について」**

湯澤 秀樹 ((株)日建設計総合研究所 理事)

15:05 ~ 15:20 <休憩>

15:20 ~ 17:00 **パネルディスカッション**

テーマ: 2050年目標を見据えた建築物(住宅含む)の持続性と高性能化を考える

コーディネーター: 小宮山 宏

パネリスト: 秋元 孝之

湯澤 秀樹

岡 幸彦 (アズビル(株) 理事、ビルシステムカンパニー マーケティング本部長)

竹川 禎信 (パナソニック(株)エコソリューションズ社 専務)

小山 貴史 (エコワークス(株) 代表取締役社長)

17:00 ~ 17:05 **閉会挨拶**

プログラム

協賛: 板硝子協会、(一社)健康・省エネ住宅を推進する国民会議、(一社)JBN、(一社)住宅生産団体連合会、(一社)住宅リフォーム推進協議会、樹脂サッシ工業会、(一社)ソーラーシステム振興協会、(一社)太陽光発電協会、断熱建材協議会、(一社)日本建材・住宅設備産業協会、(一社)日本サッシ協会、(一社)日本住宅リフォーム産業協会(JERCO)、(一社)日本冷凍空調工業会、(一社)プレハブ建築協会、(一社)リビングアメニティ協会 (50音順)

後援: 国土交通省、経済産業省、(一社)公共建築協会、(一財)建築環境・省エネルギー機構、(一財)省エネルギーセンター、(一社)日本建築学会、(公社)日本建築家協会、(公社)日本建築士会連合会

主催: 塩ビ工業・環境協会